

## 止まった冷蔵庫

市川茂子

三カ月前頃から冷蔵庫の調子が良くないので、急いで電気屋さんに見てもらおうと、二十年近くも使っているからもう寿命が来たようだという。

この夏の最中に壊れたら大変だと思っていると、冷蔵庫はともかく、こちらの体調も弱ってきた。この間はめずらしく風邪を引いて咳が止まらなくなり、薬を飲んでも効き目がない。こちらの寿命もどうなるかと心配したが、十日ほどで咳が止まって、一息ついたところで、冷蔵庫が止まってしまった。

お盆休みに入る前なので、あわてて電気屋さんに行って手配してもらったら、三日後に取替えに来てくれることになった。こんどは一人分くらいの小さなものにと行って、見立ててもらおうことにした。

今まで使っていた大きい冷蔵庫は、一人暮らしになってからは入れる物も少ないので、何でも入れてしまう。夏の暑いときは、こちらが入って涼みたくなるほどだ。電気料もかかったようで、小さくなったら年間でも万単位で節約できるという。

取り替えるまでの三日間は、冷蔵庫の中を終活のような思いで片付けて、いま必要な物には毎朝近くのコンビニで氷を買ってきて冷やしたりしながら、外食やコンビニのお弁当で、何とも不自由なことだった。

急に小さくなり、冷凍庫の位置も下に変ったので、使いながら戸惑ってしまう。

田舎に行つて来たからと、ときどき野菜などを持ってきてくれる奥様が、またスーパの買い物袋を両手に提げて来た。ジャガイモ・玉葱・人参・キュウリ・茄子・ゴーヤなど、いつもは全部冷蔵庫に入れたのに、もうスペースがない。

仕分けしながら、大事に食べることにしている。毎日のささいなことで思いめぐらすのも、惚け防止になるだろう。いまのところ冷蔵庫のことでいっぱいなので、身の回りの終活はまた先延ばしになってしまう。

取るに足らない、この夏の思い出だ。